作業箇所に掲示　（基準の見える化）

WBGT値による休憩時間及び作業中止基準　　川俣ダム工事事務所

計測時間	WBGT値				
	25℃未満	25℃～28℃未満	28℃～31℃未満	31℃～32℃未満	32℃以上
	注意	警戒	厳重警戒	危険	
8:00(※3) 8:30	通常作業	通常作業	通常作業	50分作業 10分休憩	原則作業禁止(※1)
9:00 9:30	通常作業	通常作業	通常作業	50分作業 10分休憩	
10:00 10:30	水分補給後 作業可	15分休憩後 作業可	30分休憩後 作業可	30分休憩後 作業可	
11:00 11:30	通常作業	通常作業	通常作業	50分作業 10分休憩	
12:00(※3) 12:30	昼休憩　１時間				
13:00 13:30	通常作業	通常作業	通常作業	50分作業 10分休憩	原則作業禁止(※1)
14:00 14:30	通常作業	通常作業	通常作業	50分作業 10分休憩	
15:00 15:30	水分補給後 作業可	15分休憩後 作業可	30分休憩後 作業可	30分休憩後 作業可	
16:00 16:30(※2)	通常作業	通常作業	通常作業	50分作業 10分休憩	

※1 元請担当者と相談し熱中症対策を取った上で、作業を行うことができる。

※2 17時以降も作業を行う場合は、引き続きWBGT値を計測し、上記の表に沿って作業を行う。

※3 職長は作業員に体調をヒアリングし、熱中症対策チェックシートに記入を行う。

①WBGT値は協力会社職長が所持している黒玉付熱中症指針計を用いて各作業場所で測定した値とする。

②各作業場所に設置してある熱中症対策室または直射日光が当たらない箇所で休憩する。

③水分・塩分はすぐに補給できるよう、水筒や熱中飴を携帯する。

④上記の表を基本として作業を行うが作業環境、内容等により休憩時間を多く取らせる。

熱中症の疑いがある場合は、即座に病院へ搬送を行う。

作業箇所毎のWBGT値を測定（WBGT値の見える化）

チェックシートの記入（体調の見える化）

熱中症予防体調チェックシート

予想最高温度：＿＿＿℃	日付	工事事務所名	協力会社名	確認者	
予想WBGT値による熱中症危険度	2019	川俣ダム		職長	元請職員
注意 25℃未満 / 警戒 25°28℃未満 / 厳重警戒 28°31℃未満 / 危険 31℃以上	/	工事事務所			

■点検項目の問いに、答えが『はい』の場合は○を記入、『いいえ』は空欄にしてください。

■○の数が多いほど熱中症の危険性が増しますので　職長は1個でも○がある作業員には、作業開始前に健康状態を把握して、適正配置及び作業変更・中止等の対策をおこなってください。（大林組へ必ず報告）

点検項目 / 氏名	睡眠不足ですか	疲れていますか	熱はありますか	朝食を欠食しましたか	下痢をしていますか	二日酔いですか	風邪をひいていますか	職長記入欄 ○の数	予防策の実施確認（水分補給等） 午前	昼	午後	体調不良予防対策（作業内容変更・配置転換・中止）

★熱中症予防豆知識

熱中症はかならず予防できる災害です！
■高温多湿時の作業は、塩分を含む水分をこまめに摂取してください。スポーツドリンクも有効です。
■休憩は涼しい場所（日陰・休憩所等）でこまめにとってください。
■作業時の服装は風を通し易い服と、作業場では通風・日よけ・散水等の対策をおこなってください。

■糖尿病・高血圧・心疾患・腎疾患等の病気を持っている人は特に熱中症にかかり易く重症化する危険がありますので、作業前に職長に作業変更・配置換え・中止等を申し出てください。

★熱中症発症時の対応

■万一自分自身や同僚などが**めまい、ふらつき、顔色が悪い、吐き気、頭痛、手足の痛み**がある場合は、職長・他の同僚や大林組工事事務所に連絡をとりながら、次の措置を行いましょう。

① 涼しい場所で安静（脱衣による皮膚露出・足を高く・手足の先から中心部に向けて冷たいタオルでマッサージやアイスパック等で腋の両脇・足の付け根を冷やす）にさせる。

② 水分と塩分を補給（少しずつ、こまめに補給）

③ 以上の応急措置を行い、病院へ搬送するまで、患者を放置せずに付き添ってください。

④ 速やかな医療機関への搬送・治療が優先です。